

「学びと絆の夏」発行にあたって

2011年3月11日(金)午後2時46分東北地方を中心に、大きな地震が発生し、その後襲来した津波により特に太平洋沿岸の3県は、大きな被害を受けました。死者は優に1万5千人を超え8ヶ月以上たった現在でも、多くの行方不明者がおり、家を流された方の多くが仮設住宅に住んでいる状況です。被災した地域では物流網の崩壊や、店舗の被災により、多くのお店が開店できない中、生協は組合員や地域の住民の命を支えるために、不眠不休で生活必需品と緊急支援物資の提供に取り組めました。

災害が発生した初期、組合員は避難していて、多くの方の所在が確認できなかったことや、生協の施設や機器の損壊により、宅配（共同購入）事業を継続できる状況にありませんでした。そのような中で被災地生協の宅配（共同購入）事業の職員は、日頃使用している1.5～2.0トンの小型トラックをフル活用し、道路にたくさんの瓦礫が散乱し通行が困難な中、各地から寄せられる緊急支援物資を避難所に届け続けるとともに、組合員の安否確認を行いました。このような困難な状況の中、宅配（共同購入）事業の早期再開と、毎日店を開け続けることに取り組めました。

生協は被災組合員をはじめ住民の方が、仮設住宅の周りに買い物をする場も無く、不便な環境での生活を強いられ、今後の生活に不安を抱える中、一つでも多くの問題が解決できるように取り組みました。

その為に、全国40の生協・事業連合・関連会社から延べ195人の職員が6月上旬から2ヶ月間に渡り、被災地で仲間づくりの活動に力をあわせ取り組みました。

この報告書は全国から「被災生協の仲間づくり支援活動」に参加した職員の皆さんの、活動と意思の記録です。この報告書を手にされた方が、「宅配（共同購入）事業の継続と発展が地域と組合員の命と生活を支える」ことに、確信を持ってくだされば幸いです。

2011年11月

日本生活協同組合連合会 執行役員
会員支援本部 本部長 尾辻 雅昭